

多度地区小中一貫校整備事業 第3回開校準備委員会 会議概要

開催日時 令和3年12月18日(土) 10:00~12:00

開催場所 多度まちづくり拠点施設 第4教室

出席委員 22名中 19名

1. 開会

2. 議事

(1) 経過報告

教育指導部会より <報告者:西山 広 委員>

地域連携部会より <報告者:伊藤綾子委員>

ワークショップより <事務局より報告>

(2) 義務教育学校について

講師: 飛島村教育委員会事務局 教育課 主幹 佐古 亜希子 様 飛島村立飛島学園 校長 児玉 正康 様 総括主幹 飯田 裕子 様

① 講演

② グループワーク

③ 意見交流

【意見交流の概要】(Q:開校準備委員 A:飛島村様)

<Q> もともと飛島村は、小学校と中学校それぞれ1校だったものが、一貫校として統合した理由を教えてください。

<A> 当時は小学校校舎の耐震性がなく、建て替えるかどうかという中で、村のシンボルとなる学校を建設することになったと聞いている。現在は、旧小学校校舎は取り壊され避難所に、旧中学校校舎は避難所兼子育て支援センターとなっている。

<Q> 小学校と中学校2校あった時代から、一貫型小学校・中学校、そして義務教育学校と変わってきた中で、具体的にどのような変化があったか。

<A> 子どもの情報に関して、小学校と中学校の先生がすぐに情報交換できるようになったことで、子ども1人1人の状況を正確に掴むことができるようになった。

<Q> 学校の教職員の数はどのように決まっているのか。また、高学年に「荒れ」が見られた場合はどのように対応しているか。

<A> 教職員は、前期課程籍（小学校籍）と後期課程籍（中学校籍）に分かれて人事を決めているので、教育定数に変わりはない。子どもの「荒れ」については、今はなく、むしろ気持ちに内こもっていく子どもへのケアを手厚く行うことに注力している。

<Q> 行事を多く開催しているという説明を聞いたが、時間割調整も含めて教職員の負担という点で大変ではないか。

<A> 9学年が揃う行事は、1年間で体育祭くらい。入学式や卒業式などは、特定の学年だけが参列している。授業の中の異学年交流では、「この教科なら異学年でこのようなリンクができる。」というアイデアを出しながら進めている。義務教育学校となったことで、学年を超えて取り組む行事が全校の先生に知らされるようになり、風通しが良くなった。

<Q> 義務教育学校の中で、特別支援教育の進め方について教えてほしい。

<A> 村に1つの学校ということで、村教育委員会や村役場との情報交換・連携を強くして進めている。

<Q> 地域や保護者との協力・連携の実状について教えてほしい。

<A> 村役場の各課とも協力しながら学校運営をしている。6年生が村のPR動画を村長ブログに載せるときには、企画課と連携などをする予定。地域や保護者からは、異学年が交わる行事や、体育祭の種目などのアイデアもいただいている。3年生の野菜販売は、経済課と行った。

<Q> 前期課程籍と後期課程籍の教員が乗り入れで授業を進めることに関して、人的なサポート等を教えてほしい。

<A> 後期課程籍という規模で考えると、小規模校に当たるため、全ての教科の先生を定数のみで配置できない。村の雇用で、技術科や家庭科等の教員を雇っている。加えて、村の雇用では図書司書やスクールカウンセラー、特別支援員も雇っている。

<Q> 1人校長としての苦労や喜びについて教えてほしい。

<A> 義務教育学校になったからといっても、教員は前期課程籍と後期課程籍に所属している。自由に授業を担当することは可能であるが、教員の負担感が大きくならないように前期・後期交互の乗り入れ授業を行っている。

<Q> 4-3-2の学年段階の区切りの中でも、6年生までの児童会と7年生からの生徒会もある。中等部に所属する中で、どれくらい中学生としての切り換えを子どもたちはするのか。普通の小・中学校に通う子どもたちと、感覚の違いはあるか。

<A> 子どもや保護者・地域は、9年間で1つの学校が当たり前という感覚でいる。6と3に分かれている児童会・生徒会も、4-3-2の区切りもある中で、色々な組織に所属しながら違う仲間と触れ合う機会を作っている。4-3-2のまとまりだけでなく、様々なまとまりを模索中である。児童会の5・6年と生徒会の7～9年が合同で進める取組も行っている。

<Q> 各学年で、リーダーとして活躍する場面を具体的に教えてほしい。

<A> 例えば、職場体験は、通常は中学2年生で実施するが、飛島学園は7年生で実施する。7年生がリーダーシップを発揮する機会が少ない中で、職場体験の成果を6年生に説明する機会を意図的に作っている。

(3) その他

<委員> 前回も含めて今回も、義務教育学校というものを委員が知る機会としてすごく良かった。一方で、4小1中が義務教育学校となるかも知れない中で、地域住民や桑名市内の教職員の認知という点で、課題がある。飛島学園も村費の雇用が手厚い中で進めており、桑名市も同様の取組をするのであれば、人的配置についても同時に言及して行ってほしい。

<委員> 地域対象のワークショップでは、ワークショップ用に敷地配置図の一例が示されたが、開校準備委員会の中でも少し議論しても良いのではないか。学童保育所は、校舎内の共有部分で運営する案も出ていると聞く。教職員にとって負担が減る学校となるのか、現場の先生が納得できる時間を作って進めてほしい。

3. 事務連絡